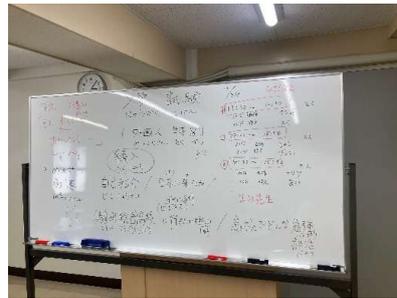


多文化共生事業事例集		年度
		R6
団体名	(一財)静岡市国際交流協会	助成金名：多文化共生のまちづくり促進事業 事業総額 1,171千円
事業名	学齢期を超えて来日した外国にルーツを持つ若者のための高校進学等支援事業	
概要	学齢期を超えて来日する外国にルーツを持つ若者が増えている。日本の進学制度についての知識が乏しいこと、高校受験に必要な日本語能力が備わっていないこと等から、進学や希望する職業と現実との間で大きな隔たりがみられる。以上のことから、高校進学のための日本語指導の場と、キャリアコンサルタントによる進路相談や先輩との交流を通じ、自ら課題解決しながら進学を含め、進路選択する力を育むことを目指した。	
事業の背景		事業の詳細
水際対策が緩和された令和4年末より、当協会が静岡市から受託し運営する静岡市多文化共生総合相談センターには、フィリピンから日本に呼び寄せた子どもの教育に関する相談が急増した。特に、義務教育の年齢を超えて来日した場合、中学校に入学することができず、高校受験に必要な日本語能力も備わっていないため、高校進学が閉ざされてしまっていることなどが判明した。		<p>①検討会議 日時：12月18日(水)13：00～17：00 場所：NPO法人青少年自立援助センターYSCグローバルスクール福生教室会議室 参加者：(一財)静岡市国際交流協会宮本記世乃 NPO法人青少年自立援助センター 定住外国人支援事業部mincプログラム コーディネーター 浅倉みさき氏 概要：8月からの本コースで出た課題について報告し、教科学習の指導方法やテキスト等について情報を共有した。</p> <p>②高校進学のための学習会の開催(全30回) 期間：プレスクール(全8回)5月19日(日)～7月28日(日)10：30～12：00 本コース(全22回)8月11日(日)～2月16日(日)13：30～15：30 または10：30～12：00 場所：ふしみやビル会議室 参加者：10人(中学生4人、既卒者6人) 概要：日本語指導(読み書き、会話)と小学校高学年～中学校1・2年生の数学、社会、国語の教科学習を行った。</p> <p>③面接・作文練習及び進路面談 日時：8月11日(日)10：30～12：00 9月22日(日)11月24日、12月22日13：30～15：30、1月26日(日)14：00～16：00 2月5日(水)14：00～16：30 場所：ふしみやビル会議室 参加者：7人(中学生3人、既卒者4人) 概要：将来の希望職業と志望高校についての聞き取りや元教員による外国人選抜試験対策(面接と作文)実施。</p> <p>④先輩交流会の開催 日時：1月26日(日)13：30～15：00 場所：ふしみやビル会議室 参加者：6人(中学生3人、既卒者3人) 概要：外国にルーツを持つ大学院生を招き、高校進学や高卒認定試験についての体験談と質疑応答を行った。</p> <p>⑤外国にルーツを持つ子どもの学習支援セミナーの開催 日時：2月15日(土)13：30～16：00 場所：対面/CSAペガサート貸会議室オンライン/Zoomウェビナー 参加者：57人(対面11人、オンライン46人) 概要：基調講演と事例報告を対面とオンラインのハイブリッド形式で行った。終了後、参加者による情報交換を行った。</p> <p>⑥課外学習(全6回)の実施 日時：6月23日(日)、7月28日(日)、10月20日(日)、12月15日(日)、1月19日(日)、2月16日(日) 場所：ふしみやビル会議室、静岡県地震防災センター 参加者：6人(中学生3人、既卒者3人) 概要：ロールプレイ(美容院に行く、119番に電話をかける)、表現ワークショップ、年賀状作成、防災訓練、プレゼンテーション(発表)練習</p>
事業の目的		
以上のことから、外国にルーツを持つ学齢期を超えて来日した若者を対象に、高校受験(特に、来日3年以内の若者を対象とした外国人生徒選抜試験)に対応する教室を開き、受験に必要な日本語と、中学校1、2年レベルの教科学習を行う。また、先輩の体験談を聞く交流会や進路希望面談及び広く外国にルーツを持つ子どもの学習支援に対する意識啓発のため事業報告会を兼ねたセミナーを実施する。		



事業実施における工夫点・事業の成果等

【高校進学のための学習会】

参加者：10人(中学生4人、既卒者6人)

【外国にルーツを持つ子どもの学習支援セミナー】

参加者：57人(対面11人、オンライン46人)

満足度：非常に満足53%

満足37% 普通10%



静岡市教育委員会としずおか自主夜間教室に参加者募集の周知を依頼した。事業の実施前に、静岡県立大学高畑教授にフィリピンをルーツに持つ子どもや保護者との向き合い方等について助言をいただいた。元小学校教員2名と静岡市地域日本語教育総括コーディネーターに講師の依頼を行い、事業内容の詳細を決定した。検討会議では、NPO法人青少年自立援助センターYSCグローバルスクールMINC事業部の浅倉コーディネーターに事業の進捗状況と高校受験に向けたカリキュラムの相談を行い、指導法やテキストの提示、東京都の事例などについて説明を受けた。

今後の課題・将来に向けての展望等

当初は5月から本コースを開講する予定だったが、学齢期を超えて来日した若者は所属する場所がないことが多いため、情報が届きにくく、結果、学習者が集まるまで3か月ほどかかった。フィリピン語相談員が電話で聞き取りを行う等、地道な活動が功を奏し、10人程希望者がいたため、8月より本コースとして開始した。事業実施が可能だったのは、日本語コーディネーター、フィリピン地域研究選考の大学院生、小学校の元教員等、NPO法人、大学教員とそれぞれの役割に依り連携を図ることができたことが大きい。

学習者については、日本語の読み書きや教科学習の程度、将来の職業等、高校進学に対する意識の程度に差があることから、日本語指導と教科指導をどの程度まで進めるべきか悩ましい問題だった。

事業報告をかねてセミナーを実施した。企画から実施まで2ヶ月弱という短い期間だったこととハイブリッド形式での開催にしたことで、スムーズな運営ができるか不安だったが、60人弱の参加申し込みがあった。学齢期を超えて来日した子どもにどのような支援をすべきか悩んでいた、他地域の取り組みや支援団体を知ることができ、大変勉強になったという声が多く寄せられたことから、外国ルーツの生徒の学習支援や、進路に関する情報と連携が不足しているという現状がうかがえた。

事業の継続や資料の共有を求める要望があったことから、今後は外国にルーツを持つ子どもの支援を行う様々な機関・団体との連携を進め、外国にルーツを持つ子ども達が将来に希望をもって生きられるよう、ニーズを反映した事業を実施していきたい。

事業担当者のふりかえり

手探りで初めた事業で、何人参加するか当初は予測できなかったが、フィリピンコミュニティの口コミ等で10人が集まり、うち7人が外国人生徒選抜試験により高校進学を果たしました。当初掲げた目標を達することはできましたが、事業を通じて、学齢期を超えて来日した外国ルーツの子どもたちが抱える課題は、日本語や教育制度はもとより、親子関係など多岐にわたることから、心理的側面にも着目して支援する必要があることに気づきました。また、高校に入学すれば全てが解決するわけではないことから、学習サポートやキャリア教育等、引き続き伴走型の支援が求められていると感じました。東京では都立高校入学後も日本語指導が行われる等手厚いサポートがありますが、静岡県では高校入学後のサポートは非常に限られています。このことから、引き続き外国ルーツの若者の高校進学やその後のキャリア支援について、様々な団体や専門家の力添えを得て取り組んでいきたいと考えています。